



授業管理

メニューを表示

シラバス
2025年度

保存が完了しました。

未確定にする

シラバスの内容についての指摘事項など



指摘事項

編集を開始

基本情報



授業名	科学技術コミュニケーション入門1～4 夏期集中		
Course	Introduction to Science Communication		
配当年次	1年 （CCH函館および連携校は、2～3年次履修可能）		
開講期	前期		
単位数	2単位		
担当教員名	◎辻 義人		
実務家教員区分	-	複数人担当形式	-
授業形態	集中講義		

授業の概要

本科目は、科学技術コミュニケーションの理念と実践について、対話形式の学習活動を通して学ぶものである。科学技術コミュニケーションとは、科学技術の専門家と非専門家（市民）とを結びつけ、お互いの対話や理解、さらには、連携や協働を実現するための活動である。

科学技術コミュニケーション活動について、身近な活動例として「はこだて国際科学祭」が挙げられる。2025年度における、はこだて国際科学祭のテーマは「食」である。本科目では、はこだて国際科学祭への参加をとおして、以下の3点について体験を重視した学習活動に取り組む。

- (1)なぜ科学技術コミュニケーション活動が必要なのか
- (2)具体的にどのような活動が行われているのか
- (3)地域において科学技術コミュニケーション活動を展開する工夫とは

授業の到達目標

- (1) 専門家と市民の対話や学習のデザイン、また、科学技術コミュニケーションに関する基本的な知識や技能を身につける。
- (2) 受講者間において対話や議論を行うことを通して、連携的・協働的な活動を理解する。
- (3) 本科目で予定している対談講演会、また、はこだて国際科学祭の参加体験に基づき、受講者と科学技術コミュニケーション活動の関係性について議論する。
- (4) 受講者が、はこだて国際科学祭に参加し出展と発表を行うことで、多様なテーマと形式で科学技術コミュニケーションが実践されていることを理解する。

成績の評価方法・基準

各授業回における課題成績、講義中の発言や貢献、科学技術イベント（科学屋台）に関する態度と貢献、講義後のレポートに基づき、総合的に成績評価を行う。単位認定要件として、①事前講義（5月から7月の週末にかけて2コマ×3回）、②集中講義（三日間）の全プログラム、③はこだて国際科学祭（科学屋台）への参加および発表、これらの3点を満たす必要がある。

テキスト

教科書は指定しない。

参考書

履修条件

- ・履修希望者が多数の場合、何らかの方法（抽選など）によって、履修を制限することがある。
- ・本科目は、対面で開催する。ただし、必要に応じて、ハイブリッド形式（オンライン形式と対面形式）を用いることがある。
- ・単位認定に際して、①事前講義への参加、②集中講義への参加、また、③はこだて国際科学祭（科学屋台）への参加と発表、これらのすべてについて参加する必要がある。履修に際して、参加可能であるか十分に検討すること。

事前学習

科学技術イベントに関する課題の作成、発表資料の作成を行うこと。

事後学習

本科目の授業内容を踏まえ、はこだて国際科学祭（科学屋台）に参加し発表すること。

履修上の留意点

- ・本科目は、キャンパス・コンソーシアム函館における単位互換科目、広域単位互換ネットワークにおける単位互換科目に指定されている。また、サイエンス・サポート函館における「科学寺子屋」として、広く一般市民の参加を募集している。
- ・本科目の履修可否、開講日程、受講要件について、追ってメールで連絡を行う。本科目の履修希望者は、事務局のアナウンスに十分に注意すること。なお、2025年度における講義日程は、以下のとおりである。

- (1) 事前講義は、5月から7月の最終週の週末に実施する。開催日程は、5月31日（土）、6月28日（土）、7月26日（土）、これら日程の3～4限である。
- (2) 本講義の集中開講期間は、8月2日（土）、4日（月）、5日（火）、この三日間（いずれも終日）である。
- (3) はこだて国際科学祭「科学屋台」の開催候補は、8月23～24日、または、30～31日のどちらかである。今後、はこだて国際科学祭の日程が決定次第、追って周知を行う。
- ・本科目における学習活動に際して、学習資料の調査や理解の深化を促す場合に限り、生成系AIツール（ChatGPT、Claude、Gemini等）を利用することが可能である。
 - ・本科目における課題作成や執筆においては、生成系AIツールの利用を禁止する。生成系AIツールを利用した課題作成を行った場合、不正行為とみなし、その時点で単位認定資格を失う。本科目において不正行為とみなすものとして、「剽窃（既存の資料に記載されている意見や考えを自分のものとして記載すること）」、「ねつ造（実際には行っていない調査や研究を行ったように見せかけること）」、「盗用（他者による意見やコメントや図表などを自身が作成したものとして利用すること）」が挙げられる。万一、担当教員が、不正行為の可能性があると判断した場合には、個別に該当者に連絡し、口頭試問等をととして事実確認を行う。

キーワード/keywords	科学技術，コミュニケーション，社会連携，専門家と非専門家（市民）の協働，環境問題，資源・エネルギー問題，SDGs
対象コース・領域 ※	全コース 学部共通選択
科目群・科目区分 ※	教養基礎科目群（人間形成）
シラバス確定	確定

学内向けテキスト販売発注票		▼
タイトル		
著者		
監修者、翻訳者、その他		
ISBN		
出版社		
価格	0	
URL		

備考

授業内容とスケジュール



本科目は、科学技術コミュニケーション活動に関する講義，ゲスト講師による講演会，受講者どうしのディスカッションや協働作業などのアクティビティから構成される．本科目の概要について，以下に示す．なお，講演会ゲストとの内容調整，また，受講者のアクティビティへの活動状況によって，内容や構成が変更される可能性がある．

- ・授業ガイダンス
- ・ゲスト講師による対談講演会
- ・講義（科学技術コミュニケーションの概念と実践）
- ・議論と発表（受講者の参加経験、期待される活動のあり方）
- ・最終プレゼン（科学技術コミュニケーション活動のプロジェクト化）
- ・授業の振り返り

現時点における開講日程は未定である．今後，本科目の履修に関するアナウンスに注意すること．

編集を開始

一覧に戻る

エクセル出力

[教職員] モード

Dodai Campus
(C) TIMEINTERMEDIA